

オープンソース LMS Sakai の 20 年にわたる歴史と現状

梶田 将司^{1,2)}

1) 名古屋大学 情報基盤センター 2) 名古屋大学 情報連携推進本部 情報戦略室

kajita@nagoya-u.jp

Two Decades of the Open Source LMS Sakai: History and Current Status

Shoji Kajita^{1,2)}

1) Information Technology Center, Nagoya University
2) Information Strategy Office, ICTS, Nagoya University

概要

2004 年から開始された Sakai プロジェクトは、牽引する大学の移り変わりはあったものの、20 年を経た現在においても活発な開発・保守が継続されている。本ポスター発表では、これまでの Sakai の歴史を振り返りながら、大学における LMS 選択のあり方を議論する。

1 はじめに

WebCT[1, 2] から始まった LMS の歴史は、「雨後の筍」のような様々な製品の乱立，その中から抜け出た WebCT や Blackboard による LMS マーケットの寡占化，Sakai や Moodle に代表されるオープンソースプロジェクトの台頭，IMS Global Learning Consortium（現在の 1EdTech Consortium）によるラーニングテクノロジーの標準化，Canvas に代表されるクラウド LMS の登場等，四半世紀を越える様々な経緯を経ながら発展し，最終的にコロナ禍における全学的なオンライン授業実施を通じて大学における教育活動の不可欠な基盤となった [3]。その歴史の中で，2004 年から始まった Sakai プロジェクトも様々な変遷を経ながら発展，現状に至っている [4]。本ポスター発表では，Sakai プロジェクトの歴史，現状を通じて大学における LMS のあり方を議論する。

2 Sakai プロジェクトの歴史

Sakai プロジェクトは，University of Michigan, M.I.T., Stanford University, Indiana University が独自に開発していた LMS をオープンソース化し，共同開発することで 2004 年から始まったプロジェクトである。最初の 2 年間は，Andrew W. Mellon Foundation からの支援も得て，総額約 6.8 百万ドルのプロジェクトであったが，最盛期には 200 を越え

る世界の研究大学を中心に広がった (図 1 参照)。我々も，文部科学省の支援を受けた ULAN プロジェクト [5] を通じて Sakai プロジェクトに参加し。国際化や日本語化に貢献した。これらの成果は，法政大学や名古屋大学に展開され，Ja Sakai Community として発展していった [6]。

3 Sakai の現状

現在でも Sakai Project Management Committee (PMC)*¹ を中核として活発に活動しており，毎週火曜日午前 9 時 (米国東部時間) から 2 時間程度の Sakai Core ミーティングがオンラインで開催されている。そこでは，新規機能の開発だけでなく，セキュリティ対応を含むバグ修正，新規機能の実装等，リリース活動および保守活動が行われている。最新版は Sakai 25.0 (図 2 参照)，保守対象は Sakai 23, 22 となっている。

4 大学における LMS のあり方

コロナ禍を経て，名古屋大学や京都大学では，LMS の所掌が IT 側から教務側へ変更される等，LMS の大学における位置づけは根本的に変わった。授業を中心に様々な教育活動のコンテンツややり取りが LMS で行われるようになった現在，LMS を変更することは PC の OS を Windows から macOS に変えるぐらいの劇的な変更をユーザに強制することになる。しか

*¹ 筆者も PMC のメンバーの一員。

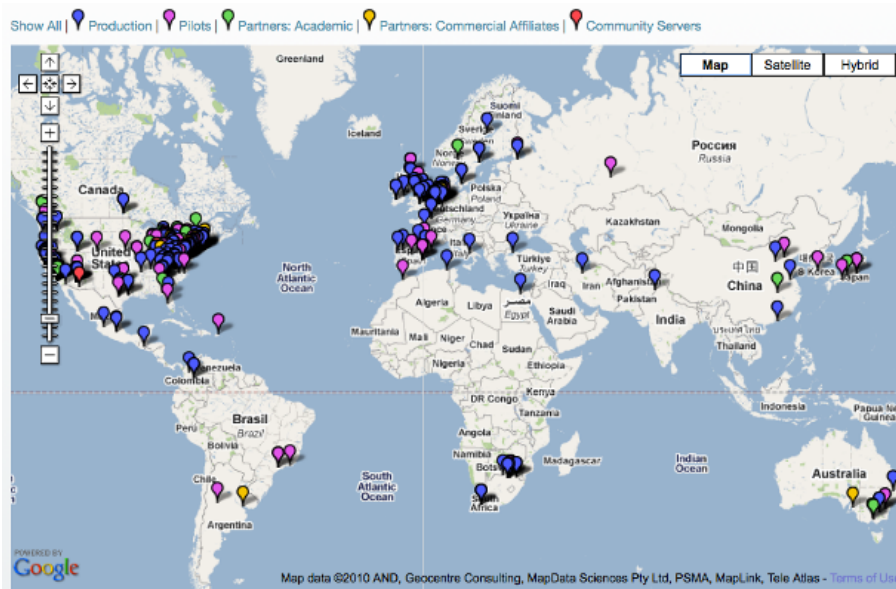


図1 Columbia University, Cornell University, Georgia Tech, Indiana University, Johns Hopkins University, New York University, Oxford University, Rutgers University, Stanford University, University of British Columbia, UC Berkeley, UC Davis, University of Cambridge, University of Michigan, Virginia Tech, Yale University など、研究大学を中心に世界中の 200 以上の大学で運用（2007 年時点）

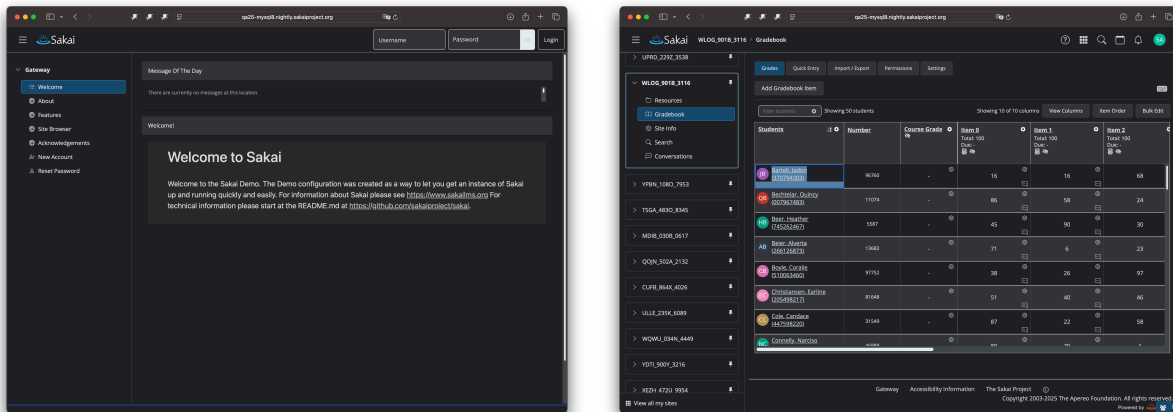


図2 Sakai 25 (nightly built) のゲートウェイページ (左) 及び成績簿ツール (右) の英語版のスクリーンショット (ダークモード対応時)。

も、生成 AI の活用によって代表されるように、蓄積されたデータをどう生かし、教育業務の効率化を図るかは大学にとって極めて重要な課題である。単なる製品選択ではない、大学としての長期的な戦略が必要である。

参考文献

[1] M. W. Goldberg, S. Salari and Paul Swoboda: “World Wide Web - Course Tool: An Environment for Building WWW-Based Courses”, Fifth International World Wide Web Conference (WWW5), May 6-10, 1996, Paris, France
 [2] エミットジャパン編, “WebCT: 大学を変える eラーニングコミュニティ”, 東京電機大学出版局, 2005 年 7 月

[3] 梶田将司, “LMS 20 年の歴史と展望 ——京都大学でのフルオンライン授業対応を踏まえて——”, 電子情報通信学会誌, pp. 855-861, no. 8, vol. 104, 2021 年 8 月
 [4] Charles Severance, “Sakai: Building an Open Source Community (English Edition)”, Amazon Kindle Edition, April 28, 2014
 [5] 梶田将司, 中澤篤志, 角所考, 竹村治雄, 美濃導彦, 間瀬健二, “ユビキタス環境下での次世代コース管理システム”, 平成 16 年度情報処理教育研究集会, pp.1-4, 2004 年 11 月
 [6] 梶田将司, 上田真由美, 間瀬健二, 名古屋大学における Sakai Pilot プロジェクトの現状と課題, Ja Sakai Conference, 2008 年 3 月 26 日